

教科名	国語	科目名	古典探究	学年	3年	単位数	2
教科書	古典探究古文編・漢文編 (大修館書店)		副教材	「準拠ワーク」 「体系古典文法」「体系漢文」 「入試対策ベストセクション古文単語325」 「大学入試国語頻出問題1200」 「国語辞典」「古語辞典」「漢和辞典」			

## 1 科目の目標

言葉文化で育成された資質・能力を活かし、伝統的な言語文化に関する理解をより深める。  
古典を主体的に読み深めることを通して伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解し、自分と社会の関わりにおける古典の意義や価値について探究する資質・能力を養う。

## 2 学習について

## ① 予習・復習の方法

予習：本文を読み、語句の意味調べを行う。古文漢文は、自分の力で現代語訳して授業に臨む。  
復習：授業を通して、理解できたこと、分からなかったところを確認する。問題を解いて知識の定着を図る。

## ② 授業における学習方法

自ら思考し、他者と交流した後、もう一度自分でまとめる。ノートは復習しやすい取り方を念頭に置く。

## ③ 家庭学習のポイント等

【Aクラス】自力で予習し、授業で確認する。教科書に掲載された文章以外の作品も読む。模試の対策・復習。  
【Bクラス】小テストは合格点をとれるように勉強する。教科書準拠ワークに取り組み、内容を理解する。

## 3 学習計画

考查		単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	前期 中間	説話『古今著聞集』 『今昔物語集』 史伝『史記』	・語彙や文法(句法)を理解して「読む」。 ・内容や構成、展開を適切に捉えて読み味わう。 ・日本・中国それぞれの精神文化を理解する。
	前期 期末	随筆『枕草子』 物語『堤中納言物語』 文章『師説』 『春夜宴桃李園序』 日記『蜻蛉日記』 『無名草子』	・文章に表現された美意識を理解して読み味わう。 ・助動詞・助詞の用法に習熟し、「読むこと」に応用する。 ・随筆や日記の特性を理解し、和歌や文章に表現された心情、考え方を考察する。 ・句法や対句など表現技法を理解し、心に訴える表現方法を工夫する。
後期	後期 中間	物語『源氏物語』 思想『論語』『莊子』 『老子』	・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容解釈し、「読むこと」に応用する。 ・人間観察や世界観など筆者の主張について考察し、自身の視野を広げる。
	学年 末	物語『西鶴諸国ばなし』 小説『人虎伝』 近世の俳諧『猿蓑』	・江戸の風俗や軽妙な表現を読み味わい、落語などの古典芸能への端緒とする。 ・『山月記』と読み比べ、翻案作品の趣旨について考察する。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容解釈し、「書くこと」に応用する。

## 4 観点別評価

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方に触れることで、他者と伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につける。

## 5 評価方法

計70時間(50分授業)

上記の観点を踏まえ、定期考查・課題考查・授業内小テストの成績、単元ごとや宿題などの課題、学習態度等を以下の割合で総合的に評価する。

知識・技能…60% 思考・判断・表現…30% 主体的に学習に取り組む態度…10%